

特別賞

都市計画道路 庄の原佐野線街路事業

(表彰対象者：大分県大分市都市計画部)

表彰の理由

都市間交通のアクセス道路として都市の骨格をなす新たな幹線街路を完成させるとともに、その効果として新たな都市空間を現出させつつある。

事業のあらまし

庄の原佐野線は、九州横断自動車道大分インターチェンジより大分市中心市街地の国道210号を結ぶアクセス道路として、重要な位置付けにあるが、昭和51年当時、同自動車道別府～大分間の供用開始を間近に控え当路線の整備は後には持越せない重要な課題となっていた。また、当路線は市域内の東西方向の幹線街路にもなっており、周辺の新興大型団地（青葉台、にじヶ丘）の開発に伴い整備する必要性も高まっていた。このため昭和51年度末に事業に着工し、平成4年10月に完成をみたものである。

- 延長：1,935m
- 幅員：25m
- 事業費：7,390百万円
- 事業実施期間：昭和52年3月～平成4年10月



都市計画道路生石椎迫線との交差点より市街地方向を望む。



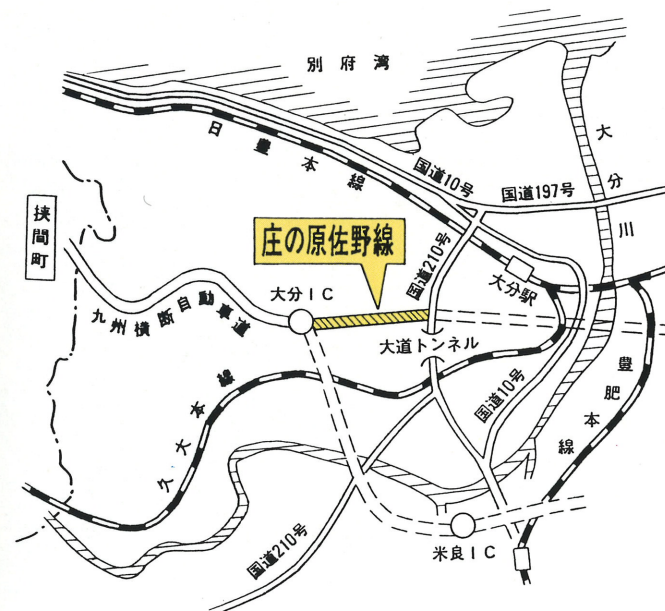
航空写真。



右側方向が国道210号方向。
左側奥の方向が九州横断自動車道大分インターチェンジ。



国道210号との交差点より起点方向を望む。



右側方向が国道210号方向。
左側奥の方向が九州横断自動車道大分インターチェンジ。

事業遂行上の工夫

交通量も多く、人家連だんした区間の現道拡幅であり、地区住民も地域の分断や環境の悪化等種々の不安を抱いていたため、地区住民対応や合意形成に難航を極めた。そのため住環境の整備や生活道路の整備も同時に進め地区住民とのコンセンサスを得ながら4年間で家屋移転戸数109戸、街路用地買収面積24,157㎡を完了した。